4月中旬
公開予定!

令和6年度版 小学校英語教科書

『Here We Go!』ご紹介ウェブサイト

令和6年度版教科書の特色・内容について、ウェブサイト上でご紹介します。



- 新版教科書 3つの特色
- デジタル教科書・教材のご紹介（ウェブ体験版）
- QRコンテンツのご紹介
- 「年間指導計画・評価計画資料」などのダウンロード資料

※体験版は、スマートフォンの場合、機種によってご利用いただけないコンテンツがあります。

アクセスは こちらから
https://www.mitsumura-tosho.co.jp/06s-kyokasho/eigo/

光村図書 ウェブサイト
光村図書 検索

小・中・高等学校 教科書訂正の お知らせ

光村図書 LINE公式 アカウント 友だち募集中!

英語 Here We Go! 教育相談室 | No.12 |
2023年4月18日発行

発行者●吉田直樹
発行所●光村図書出版株式会社　〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話●03-3493-2111　www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン●Better Days（大久保裕文＋深山貴世）
イラスト●小林マキ
印刷所●株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

教育情報誌に関するお問い合わせ先
住所変更・配送停止▶ej1@mitsumura-tosho.co.jp
ご意見・ご感想▶koho@mitsumura-tosho.co.jp

光村図書

内容解説資料

2023 | No.12 | 光村図書

英語 Here We Go! 教育相談室

特集
令和6年度版 小学校英語教科書『Here We Go!』のご紹介

特別企画
小学校から中学校へ ―小中連携のために

Let's enjoy! Small Talk
自己紹介

子どものためのBOOK GUIDE
The Earth and I





内容解説資料
本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

what's this?

from Taiwan



台湾の市場に並ぶ、デコボコで淡い緑色の不思議な物体。これは台湾名産の果物で、お釈迦様の頭に似ていることから現地で「釋迦」、日本では「釈迦頭」とよばれています。デコボコの皮をむくと、中の果肉は白く、甘酸っぱくてクリーミー。英語では「シュガーアップル」や「カスタードアップル」とよばれます。

釈迦頭は、約400年前にオランダ人が台湾に伝えたといわれています。温暖な台湾は果物生産が盛んで、マンゴーやバナナ、パイナップルなどを日本にも輸出しています。しかし、生の釈迦頭は傷みやすく輸出が難しいため、現在、日本で流通しているのは冷凍ものだけ。台湾旅行に出かけたら、市場やスーパーの果物売り場で、フレッシュな珍しい果物を探してみましょう。

天野 恵／台湾・台北在住　海外書き人クラブ会員

写真のダウンロードはこちらから

他にも、釈迦頭を切ったところを撮影した写真などを用意しました。授業などにご活用ください。



英語教育相談室 Here We Go!

2023 | No.12 | CONTENTS

What's this?
釈迦頭
<Taiwan>

特 集

02 令和6年度版 小学校英語教科書『Here We Go!』のご紹介
—互いの気持ちを伝え合う楽しさを知り、互いの違いを大切にできるように。
3つの特色
太田 洋／東 仁美／加賀田哲也
新版教科書の構成
デジタル教科書・デジタル教材

特 別 企 画

16 小学校から中学校へ
—小中連携のために
小中連携のポイント
—学び方でつなごう!
太田 洋

ラウンドシステム 解説
子どもの学びをつなぐ ストーリーでつなぐ
—ラウンドシステムの可能性
西村秀之

ラウンドシステム 実践紹介
小・中の学びをつなぐ5ラウンドシステム
阿部 卓

連 載

22 Let's enjoy! Small Talk［Lesson5］
自己紹介
窪田 遼

24 子どものための BOOK GUIDE［第12回］
The Earth and I
金原瑞人

こんなギモン、ありませんか？

Q.1
学習者用デジタル教科書をどう活用すればいいの？

Q.2
言語活動を充実させるには？

Q.3
小中連携って、どうやったらいいの？

Q.4
「指導と評価の一体化」をどう実現したらいいの？

Q.5
「文字の読み書き」をどのように指導すればいいの？

新しい教科書が解決します！

そのギモン、
令和6年度版 小学校英語教科書
『Here We Go!』が解決します!



Q.1 学習者用デジタル教科書をどう活用すればいいの?

A.1 まず、学習者用デジタル教科書は、使用すること自体が目的ではないことを忘れないようにしましょう。これまでの紙媒体の教科書と同じように、子どもたちの学びと成長とを支えるものであることは変わりありません。『Here We Go!』の学習者用デジタル教科書の利点は、チャンツやリスニングをはじめとする教科書の音声、アニメーションや動画などの豊富なコンテンツにアクセスできることです。子どもたちは、いつでもどこでも自分のペースでチャンツを聞いたり、何度もStoryを視聴したりすることができます。子どもたちが教室外で英語に触れる機会を増やしてあげることから始めましょう。



加賀田哲也(かがたてつや)
大阪教育大学教授・
小学校英語教科書
『Here We Go!』
編集代表者

Q.2 言語活動を充実させるには?

A.2 『Here We Go!』は、子どもたちの「知りたい!」「伝えたい!」という気持ちをいちばん大切にしています。子どもたちが自分の本当の考えや気持ちを伝え合うことができるように、言語活動を通して語句や表現を学ぶことが大切です。語句や表現をそらんじるために行うものではない、ということに注意しましょう。目的や場面、状況に合わせて思考力・判断力・表現力を活用する、ということは「考えて工夫する」ということに他なりません。そのためには、それまでに学んだことを生かすことが欠かせないでしょう。何度も塗り重ねて完成させる漆工芸の「漆塗り」をイメージして、既習表現を持ち出し、実際に使ってみる、ということを何度も何度も繰り返しましょう。



東 仁美(ひがしひとみ)
聖学院大学教授・
小学校英語教科書
『Here We Go!』
編集委員

Q.3 小中連携って、どうやったらいいの?

A.3 これまでと同じように、小学校では「聞くこと」「話すこと」を中心に、「読むこと」「書くこと」へも段階的に慣れ親しんでいくようにしましょう。

『Here We Go!』の学習者用デジタル教科書を使うと、子どもたちは手軽に、音声やアニメーションなどの動画にアクセスすることができます。Storyには子どもたちが知らない言葉が出てきますが、視覚情報の助けを得ながら聞くことで理解することができます。わからないことがあっても気にせず、曖昧さに耐える姿勢を育てましょう。こうした「量に負けない子ども」を中学校へ送り出してやること、これこそが小中連携の要(かなめ)となるのです。



太田 洋(おおたひろし)
東京家政大学教授・
小学校英語教科書
『Here We Go!』
編集代表者

Q.4 「指導と評価の一体化」をどう実現したらいいの?

A.4 「評価のための評価」ではなく、「指導を充実させるための評価」だということを押さえておきましょう。目の前にいる子どもの現在の姿を見取り、その子どもがどのような足場かけを必要としているかを見極めることが大切です。新しい『Here We Go!』では、各Unitや教材に、重点的に指導・評価することを推奨する領域を示してあります。見取る領域を絞っているので、指導計画が立てやすくなります。

Q.5 「文字の読み書き」をどのように指導すればいいの?

A.5 「読むこと」「書くこと」を決してあせらないことです。漢字ドリルの感覚で、ページいっぱいに単語を書かせることは避けてほしいです。子どもたちは中学年でアルファベットの形には触れてきていますが、書くことには慣れていません。5年1学期は、じっくりと時間をかけて、アルファベットに向き合わせましょう。『Here We Go!』のAlphabet Timeや各UnitのLet's write and read.などの活動は、段階的に読み書きの力をつけるための緩やかな設計となっているので、安心して読み書きに慣れ親しんでいくことができます。

次のページより、新版教科書の特色・構成をご紹介します。

特集

令和6年度版 小学校英語教科書

――互いの気持ちを伝え合う楽しさを知り、互いの違いを大切にできるように。

『Here We Go!』のご紹介



3つの特色

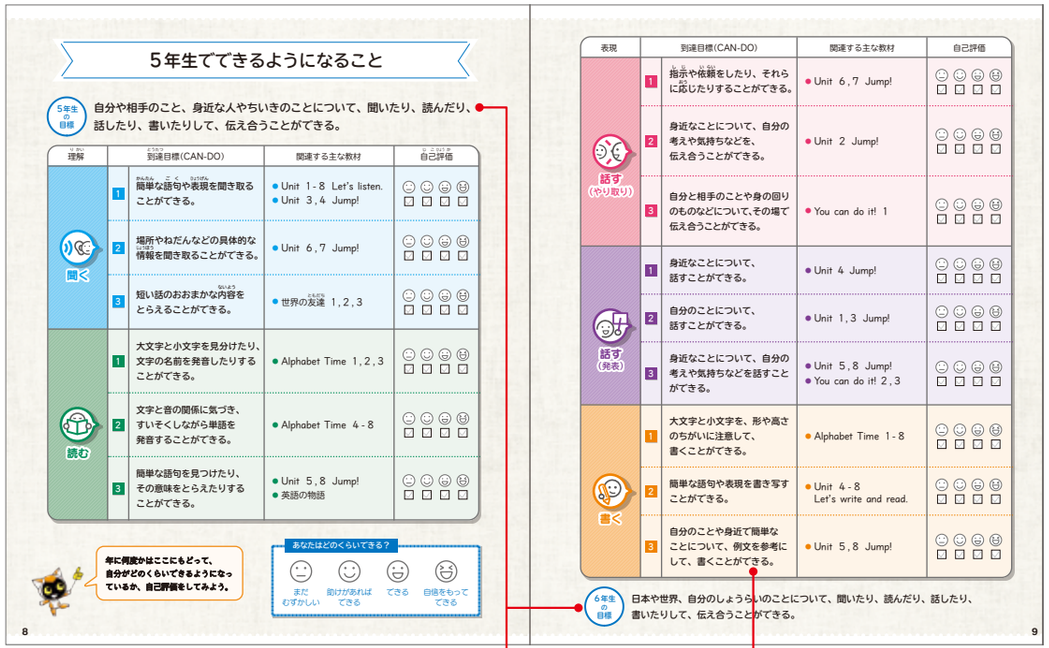
『Here We Go!』の特色について、
太田洋先生、東仁美先生、加賀田哲也先生に
ご紹介いただきます。

特色1 確かな英語の力を育む構成

何ができるようになるのか、どのように学んでいくのかがわかるように、各学年の目標とともに、重点的に指導・評価する領域を設定しました。

●CAN-DOリスト

各学年の目標に沿って、５つの領域別に、目標をCAN-DOリスト形式で明示しました。



5年 p.8-9

学年の目標
当該学年の目標だけでなく、次学年の目標も示しています（6年生の場合は中学生の目標）。

到達目標（CAN-DO）
学習指導要領の目標に対応しているので、指導計画を立てる際にも役立ちます。

●重点化領域

Unitや教材では、重点的に指導・評価することを推奨する領域を示しました。
重点化領域に沿って進めることで、まとまりごとに５つの領域を
バランスよく評価することができるように設計しました。



5年 p.4

目標やできるようになることが明確になることで、小学校で育てる英語力が「見える化」されます。



太田先生

重点化領域
Unit 1-3、4-6、7-8のそれぞれのまとまりの中で、４技能５領域を見取ることができるように設計してあります（5年のUnit 1-3では「読む」「書く」を除く）。

聞く活動　読む活動
やり取りする活動
発表する活動　書く活動

※本誌上の「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

特色 2

互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

子どもたちが自分の本当の考えや気持ちを伝え合えるよう、既習表現に何度も触れて活用することのできる場面を増やしました。

既習表現を何度も耳にしたり、口にしたりすることで、「漆塗り」の言語活動が実現できますよ。



東先生

●まとめ　世界の友達

各学年3か所にある「まとめ」の言語活動は、「世界の友達」と「You can do it!」で構成。

「世界の友達」では、ここまでのUnitで学んできた表現を聞いたり読んだりと、

「受容する」活動を設定しています。



「聞く」「読む」目的の設定

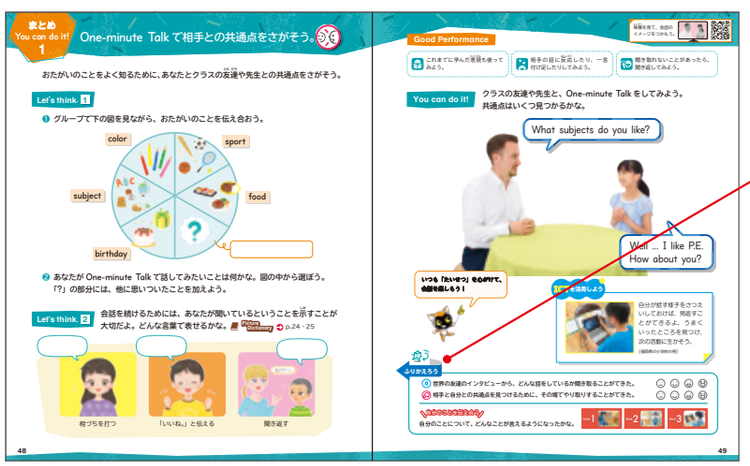
「あなたなら、他にどんなことをききたいかな。」「(お手紙に)どんな返事を書きたいかな。」などと設問が置かれていることで、子どもたちは相手意識をもって映像を見ることができます。

5年 p.46-47

●まとめ　You can do it!

ここまでのUnitで学んできた表現をやり取りしたり発表したりと、「発信する」活動を設定しています。

児童のパフォーマンスの力を見取るのに活用できます。



まとまりごとのテーマの確認

5年Unit 1-3のまとまりのテーマは「自分のことを伝え合う」。ここで振り返り、既習Unitのアニメーションを改めて見ることを促しています。

5年 p.48-49

●Small Talk

各Unitには、教室での実際のSmall Talkのきっかけになるミニアニメーションを用意しています。



5年 Unit 5　Step 2　のSmall Talk(p.63)

既習表現

中学年から慣れ親しんできた既習表現を数多く含んでいます。

【My Favorite Character】

Hello, everyone. Do you like books?

I like books.

This is my favorite Japanese book, Momotaro.

Do you know the story of Momotaro?

He can fight demons. I like this scene.

He can help people.

He is strong and kind!

Everyone, please tell me about your favorite character.

キャラクターによる問いかけ

Storyでおなじみのキャラクターたちが子どもたちに問いかけてきます。この問いかけをきっかけに、指導者は、実際のSmall Talkを始めることができます。

●Plus One

各UnitのLet's try. で扱った話題を別の相手に話したり、さらに詳しく相手にたずねたりする活動を設定しています。思考力・判断力・表現力を磨きます。



6年 p.19

●Phrase Hunt



Unitの Goal には既習表現を思い出すためのPhrase Huntを新設しました。QRコードから見られる表現をヒントに他に使えそうな表現を探し、クラス全体で共有します。



5年 p.65 Jump! のQRコードコンテンツ

特色 3

楽しく学び、視野が広がる豊かな教材

子どもたちが学ぶ楽しさを実感しながら、
言葉の力をつけていくことのできる教材をそろえています。



『Here We Go!』に登場するキャラクターたち。新しい教科書でも大活躍します！

●Story

個性豊かなキャラクターたちが登場するアニメストーリーは、互いを認め、尊重し合う心を育てます。

リリーの兄ダン
車椅子バスケットボールを得意とするダンは、リリーのあこがれの人。



5年 Unit 5　My hero is my brother.



新キャラクターの登場
ニックの近所に住むムタイさんは、アフリカ料理レストランのシェフという設定。

5年 Unit 7　What would you like?

オンラインで世界の友達との国際交流
世界の友達とキャラクターたちのオンラインでのやり取りも新たにアニメ化。



5年 Unit 3　What subjects do you like?

学習者用デジタル教科書の活用で、「個別最適な学び」が可能になります。
StoryやPicture Dictionaryを効果的に使いましょう。



加賀田先生



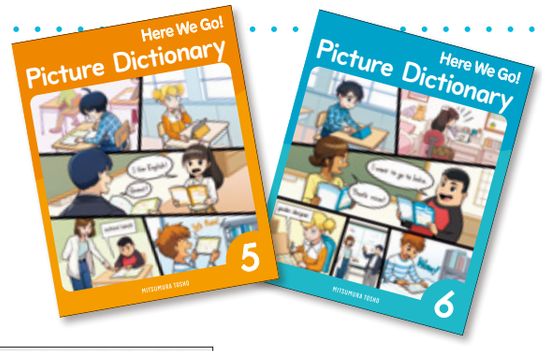
●All About Me

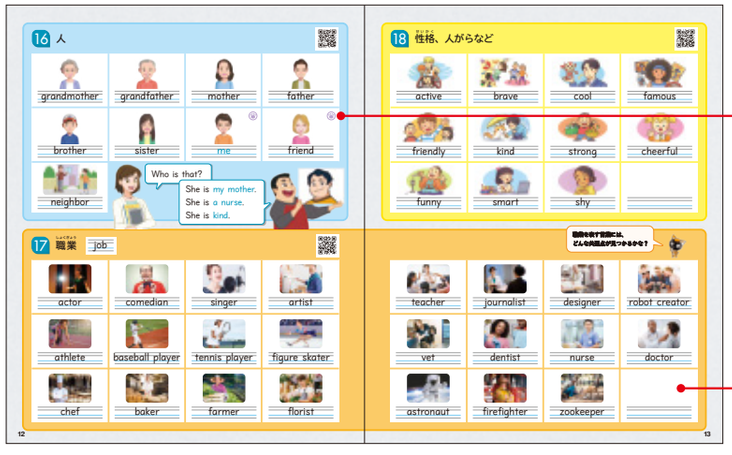
１年間の自分の学びが可視化されるよう、各学年の巻末に学習の成果が一覧できるシートを用意しました。中学校１年生の自己紹介の際にも活用できるシートです。

自分だけのオリジナルのシートに
自分なりの目標を書いたり、イラストを好きな色で塗ったりして、愛着のもてるシートに仕上がります。

●別冊 Picture Dictionary（絵辞典）

すべての単語を４線とともに表示した絵辞典です。教科書から取り外して使え、QRコードからは音声を確認することができます。





5年 別冊 Picture Dictionary（p.12-13）

既習単語には足跡マーク
紫色の丸印は中学年、オレンジ色のひし形印は5年で触れてきた単語を表します。

My単語の書き込み
自分が使いたい単語を書き加えられる欄を設けています。

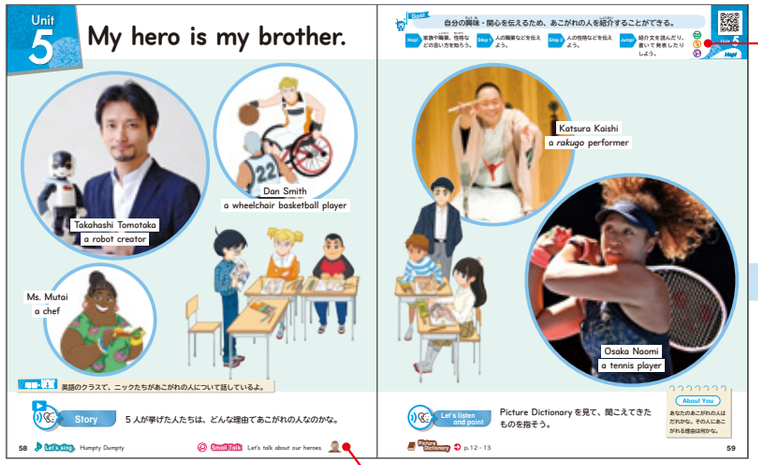
新版教科書の構成

各学年とも、8つのUnit、3つの「まとめ」を設けています。
各Unitは重点化領域を示したうえで、Hop!→Step 1→Step 2→Jump! の順で構成し、
重点的に扱う内容とゴールまでの学習の流れがよりわかりやすくなるようにしました。
「まとめ」には「世界の友達」と「You can do it!」の2見開きがあり、それぞれ「聞くこと／読むこと」「話すこと（やり取り／発表）」のパフォーマンスを見取る場面として活用できます。

5年　6年
自分 → 身近な人 → 地域 → 日本 → 世界 → 将来

各学年に3つのテーマを設定し、学ぶことが明確になるようにしました。
5年生には「自分のこと」「身近な人のこと（他者）」「地域のこと」、6年生には「日本のこと」「世界のこと」「将来のこと（未来）」というように、身近なものからしだいにテーマが広がっていくようにしました。

HOP!



5年 Unit 5（p.58-65）

重点化領域の表示
このUnitで指導・評価する領域を示しました。



5年 p.106

Alphabet Time

アルファベットの音と文字について学習するページを巻末にまとめて設けました。Unitと合わせて取り組むことで、段階的に読み書きの力を蓄えられるよう設計しています。

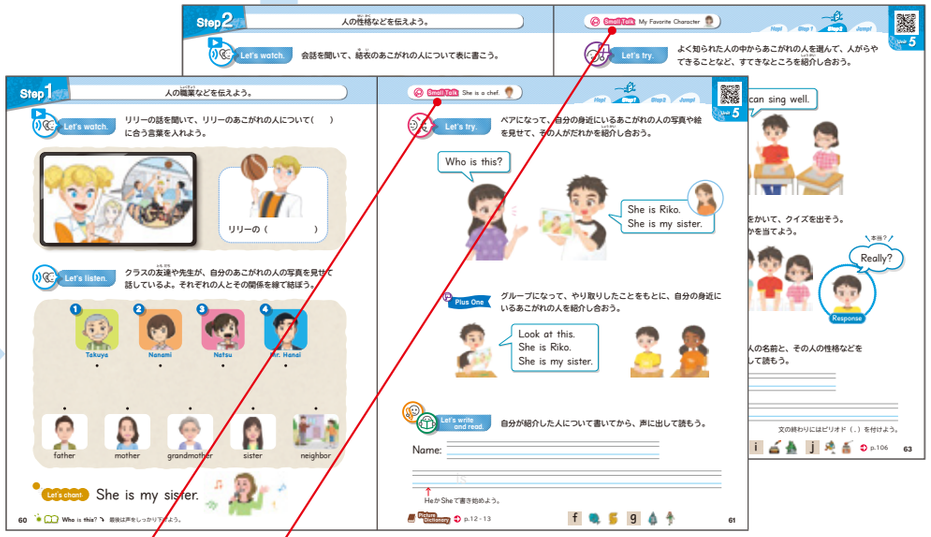
Small Talk
Hop! とStep 1・2にSmall Talkのミニアニメーションを設定。既習表現をふんだんに取り込んだアニメを話題の手がかりに、子どもたちとの Small Talk に展開することができます。

Small Talk My Favorite Character

JUMP!



STEP!





活動のモデル動画
Jump! のゴール活動と「まとめ You can do it!」は、QRコードから子どもたちのモデルとなる動画が見られます。活動に入る前に、活動のイメージをもつことができます。

まとめ



5年 p.46-47



5年 p.48-49

デジタル教科書・デジタル教材

一人一人に合わせた個別最適な学びを実現し、主体的に学習に取り組む態度を育みます。

●学習者用デジタル教科書

紙の教科書と同一の内容をデジタル化したもので、便利な機能が使えます。

NEW 読み込み速度がスピードアップ！

教科書紙面データを軽くし、目次から教科書紙面の読み込み速度を５分の１以下に短縮（当社比）。授業を止めることなく使用できます。

NEW 充実した音声・映像で、個に応じた学びを実現！

学習に必要なすべての音声や映像コンテンツが、自分のペースで何度も視聴できます。

NEW ナレーターの朗読音声を収録！

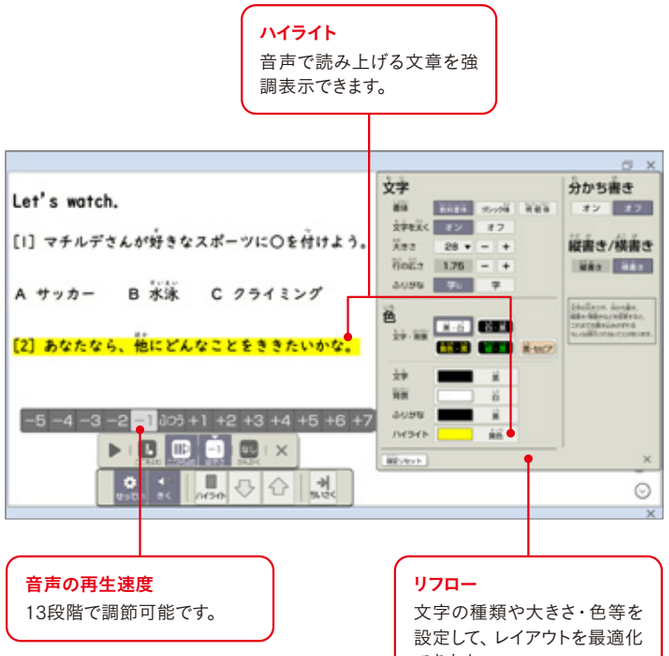
紙面の英文の読み上げ機能には、ネイティブのナレーターの朗読を収録しました。

NEW 学習履歴を確認できる！

ページごとの表示回数、閲覧時間などを先生が確認でき、個別の指導に役立てられます。

他にも……

- **授業支援ソフトと連携**すれば、共同作業やコメントを送り合うことも可能。
- すべての漢字に振り仮名を表示する「**総ルビ**」機能
- 色**反転**機能（効果的な箇所のみを反転処理）
- **スタンプ**機能
- 自由な**書き込み**機能



※上記の「学習者用デジタル教科書」の機能は、すべてのデジタル教科書に共通します。

●学習者用デジタル教科書＋教材

「学習者用デジタル教科書」に、新たな映像や単語のゲームなどの教材をプラスし、「ふりかえり」の機能などを搭載しました。映像の字幕のON ／ OFFも設定できます。

追加の映像教材をふんだんに収録

【チャンツ】
字幕ありなし、リピート練習用、カラオケ用動画を用意しました。

【Sounds and Letters】
リピート練習用の動画を用意しました。

【歌】
歌詞付きのアニメ動画を用意しました。

Picture Dictionaryの追加機能

言語活動に必要な単語が脇に提示されるので、使いたい単語を確認して、スムーズに活動することができます。



Picture Dictionaryの追加機能

家庭での自習もサポート

- カルタゲーム、マッチングゲーム、フラッシュカード、なぞり書きなど、「自習コーナー」を設けました。
- 自分に必要な単語を自由に登録できる「My単語」機能をつけました。

学習内容を振り返る

- 児童が各活動の自己評価を記録し、「ふりかえり」にコメントを書き込んで、先生に送ることができます。
- コメントを返すときにはResponseスタンプが役立ちます。



「My単語」の追加機能

指導者用デジタル教科書（教材）
「学習者用デジタル教科書＋教材」に、解答表示機能や評価支援の機能を搭載しました。

＼ 詳しくはこちら ／
令和6年度版 小学校英語「デジタル教科書・教材」

※収録内容、仕様などに関しては、開発中のため変更になることがあります。

特別企画

小学校から中学校へ

――小中連携のために

小学校英語の教科化が始まって4年目。小学校では英語の授業が定着してきました。中学校ではどんなことを大切にしたらよいのでしょうか。

小中連携のポイント
――学び方でつなごう!

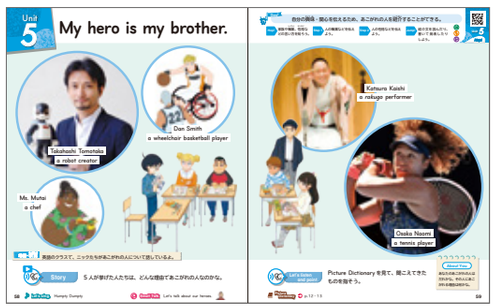
太田 洋（おおた ひろし）
東京家政大学　教授

「小学校・中学校と、英語を学んできたからこんなことができるようになったんだ」――生徒にこんなふうに思ってほしいですよね。そのために私たち教員ができることは何でしょうか。その一つは「学び方」で小学校と中学校をつなぐことです。小・中の英語の授業での学び方がつながっていれば、小学校での学び方を継続して、中学校でも安心して学び続けることができます。言葉を身につけるのには時間がかかりますので、学び方を継続することはとても大切です。今回は小・中の『Here We Go!』で英語の学びがどのようにつながっているのかをご紹介したいと思います。

理解のしかたでつなぐ

『Here We Go!』では、小学校・中学校ともに各Unitの最初でストーリー全体を聞かせる流れになっています。まとまった量の英語をインプットするため、以下の三つの工夫をしています。一つ目は、子どもが親しみをもつ登場人物が継続して活躍するストーリーになっていることです。それを通して、子どもたちはそれぞれの「人となり」を知っていきます。「将太ならどうだろう」などと内容を予測して聞くことが、理解を促進します。二つ目は、映像という視覚情報の助けを得ながら聞くことができることです。映像で場面・状況がよりわかりやすくなりますし、親しみやすいので、繰り返し聞く（見る）ことが苦になりません。三つ目は構成です。最初に全体を聞いた後、改めて部分ごとに聞く、という流れになっています。この繰り返しで徐々に理解を深めていきます。

このような学び方を小・中両方で行うことで、「量に負けない子ども」を育てることができます。わからないところがあっても気にせずに、曖昧さに耐える姿勢で、まずはわかるところから理解を始めます。粘り強く何度も聞いているうちに、子どもたちは理解を深めていくのです。このような学び方を小・中でつないでいけば、言語の学びにいちばん大切な「インプットの量を増やす」ことができます。学び方としては最も大切なことの一つといえます。



令和6年度版小学校『Here We Go!』5年 Unit 5　冒頭ページ

「自分ごと」にしてつなぐ



令和6年度版小学校『Here We Go!』5年 Unit 5　Small Talk

インプットをたくさん得て、量に負けない学習をした後は、理解したことを徐々にアウトプットする機会を与えましょう。「自分なら何と言うだろう」と、習ったことを自分に近づける学びをすることです。このときに大切なのは新しく習った語句や表現を使用するだけではなく、今までに習った表現を駆使するような場面を設けることです。この習ったことを子どもに近づける学び方を、令和６年度版小学校『Here We Go!』では、Small Talk・Let's try.・Plus Oneの各教材で行います。特にSmall Talkでは、それまでに習った表現をふんだんに盛り込んだミニアニメーションの中で、大好きなキャラクターたちが自らのことを語った後に “How about you?” と投げかけてきます。見ているだけで、思わず自分のことを話したくなるでしょう。

中学校では、新しい言語材料を扱うSpeak・Writeだけではなく、継続的に使用する帯教材Let's Talk!で、既習表現を使って自分のことを語る機会を設けています。こんなふうに、習ったことを自分に近づける学びを、小・中で繰り返し継続することで自分たちの言葉で伝え合う力が高まっていくことでしょう。

中学校の最初で小学校の学びをつなぐ



令和3年度版中学校『Here We Go!』1年　Let's Be Friends!

中学校１年の最初は生徒にとって不安な時期です。この時期を大切にしましょう。「聞く」「話す」を柱に据えた小学校で、英語をどんなふうに学んできたか、教員の皆さんは目の前の生徒たちをよく見て捉えてください。その見極めのために、接続期の教材が最適です。中学校の『Here We Go!』では、Let's Be Friends!という接続教材で小学校の活動を繰り返しています。生徒たちが聞いたり話したりする姿から、小学校での学び方を中学校へとつなげるヒントを得てほしいと思います。

小･中で学び方をつなげよう!

以上３点、小中連携のポイントともいえる、学び方についてご紹介しました。中学校の先生方、生徒たちが小学校で身につけた学び方を中学校で生かしましょう。小学校の先生方、児童たちの学びはこんなふうにつながっていきます。安心して日々の授業を進めてください。

小学校から中学校へ、学び方をつなげて、子どもたちの英語の力を育てましょう。

＼ ラウンドシステム 解説 ／

子どもの学びを つなぐ ストーリーでつなぐ ——ラウンドシステムの可能性

西村秀之（にしむらひでゆき）
玉川大学　准教授

「英語教育相談室No.6」の特集でも、ラウンドシステムを取り上げました。こちらも合わせてご覧ください。

小学校・中学校ともにストーリーがその特徴となっている『Here We Go!』。特に中学校では、その特徴をうまく活用した、「5ラウンドシステム」（以下、5ラウンド）による英語の授業が全国的な広がりを見せています。

5ラウンドシステムとは

5ラウンドとは、子どもの表現力を育むことをねらい、1冊の教科書をさまざまな角度から年間に5巡使用するカリキュラムです（図1）。もとは横浜のある公立中学校での取り組みでしたが、生徒が生き生きと英語を使う姿などから徐々に広がりを見せ、今では自治体として取り組むところもあるほど広がっています。

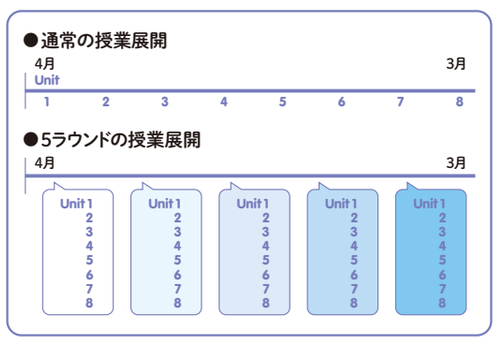


図1　5ラウンドの年間展開例

中学校では、第二言語習得の理論を参考にしながら、聞くことから話すことへと一年間かけて展開していくカリキュラムとなります。

ラウンド1では、聞くことを通じて内容を大まかに把握していきます。続くラウンド2では、音声と文字を一致させていきます。その後のラウンド3では、音声によって把握した内容と文字情報をつないだことを生かして音読。続くラウンド4では、教科書本文に空欄を設けて穴あき音読をし、それまでにインプットしてきたことを徐々にアウトプットへとつなげます。そしてラウンド5では、一年間かけてインプットしてきたことを使って、自分の言葉でストーリーを伝えるリテリングを行います。

これまで主に中学校で進められてきた5ラウンドですが、「聞くことから話すことへ」という言葉の学びの特性を生かし、小学校での実践も広がっているようです。

小学校では授業時数が年間70時間なので、5ラウンドではなく、3ラウンドなどで展開されていることが多いようです（図2）。

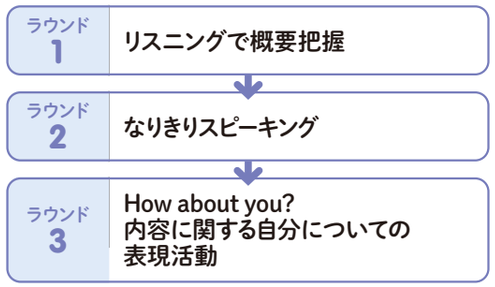


図2　小学校での具体的な展開例

ラウンド1では、聞くことを通じて内容を大まかにつかみ、ラウンド2ではキャラクターになりきって一緒に言ってみます。そして、ラウンド3では、たっぷり慣れ親しんだ表現・内容を踏まえて自分のことを話してみる、という展開が一例として挙げられます。

実際の教室の様子

小学校・中学校問わず、実際にラウンドスタイル（以下、ラウンド）の授業を拝見すると、あらゆる場面で子どもの英語が飛び交っています。中学校では教科書や穴あきシートでの音読、小学校では教科書に登場するキャラクターになりきって行う「なりきりスピーキング」など、ラウンドの一環としての活動のみならず、教科書で繰り返し触れた表現を活用できるように、先生と子ども、子どもどうしの英語によるやり取りが繰り広げられています。教科書に繰り返し触れることで表現が染み込み、それらをやり取りなどの場面で子ども自らが活用することでだんだんと発信力が育まれる、といった具合です。学習者である子どもたちの活動が中心、というのがこのラウンドの授業の特徴です。

また、この授業の特徴は、第二言語習得の理論を踏まえ、たっぷり聞くことから無理なく話すことへつながるよう、長い期間で考えられているということです。中学校では、ラウンドごとに1～2か月程度かけて活動を行い、教科書1冊を学びます。それは、小説を何度も読み返すような感覚です。小学校でも、学期ごとに複数ユニットを通じて、聞くことから最終的に話すことへと活動が展開されます。

「そんなに繰り返すと子どもが飽きませんか」という疑問が湧くかもしれませんが、そこにストーリーのよさがあります。繰り返しながらも、内容を中心に捉えていくので、「気づいたら何度も繰り返し聞いていた、読んでいた、話していた」という展開が可能となるのです。子どもは、個々の表現や単語ではなく、「Kotaのこの発言ってあやしいよね」など、それぞれのキャラクターの一挙手一投足に注目しており、それがたまたま英語で表現されている、といった様子です。

そして、それはやはり中学校に限ったことではなく、小学校でも同様の様子が見受けられます。それぞれのキャラクターの発言に対して、子どもたちはさまざまにコメントをします。やはりここでも、表現が、単語が、などではなく、あくまでも「内容」に子どもたちの意識が向いているのです。

ラウンドシステムの可能性

ラウンドを実践している教室での子どもの様子を見ていると、小学校でも中学校でも同じように、聞くことから始まって、徐々に表現することへという学び方を当たり前のようにしています。

言葉を習得するうえで大切な「たっぷり聞くこと」から始まり、表現に繰り返し触れながら子ども自らも活用し、表現する力を徐々に育んでいく。そのような学びがスパイラルに小学校から中学校まで展開されたとしたら、子どもたちの英語の力はどのように伸びていくのか、考えただけでもわくわくしてきました。

ストーリーを軸とし、内容を中心に進めていくからこそ、子どもたちは、紙面には表れていない世界を想像したり表現したりすることができるのです。自分たちでサイドストーリーを創作するなど、子どもたちの学びの可能性は無限大でしょう。

何度も繰り返すラウンドスタイルは、ストーリーを魅力とする『Here We Go!』だからこその学びのスタイルと考えます。子どもたちの豊かな発想を大切に、いろいろな学びを可能にしてくれるのではないかと思います。

＼ ラウンドシステム 実践紹介 ／

小・中の学びをつなぐ5ラウンドシステム

阿部 卓（あべ すぐる）
横浜市立義務教育学校 西金沢学園
後期課程（中学部） 教諭

私が5ラウンドシステムというカリキュラムに出会ってから、10年がたちます。教科書を5巡して何度も表現に触れ、少しずつアウトプットを繰り返すという方法で、生徒たちは英語の力を身につけていきました。そんな姿を目の当たりにして、「インプットから入る」という言語習得の理論に基づいて考えられたラウンドシステムは、実は小学校でも効果的な指導法ではないかと考えました。ここでは、これまでの中学校の授業を振り返りつつ、ラウンドシステムを活用した小学校での授業を紹介します。

トピックベースで進めるラウンドシステム

本校の授業を見に来た先生方が口をそろえて言ってくださるのは、「生徒がよく話す」ということです。その日に提示されたトピックについて即興で話すときの内容は、学年を追うごとに詳しくなっていきます。その「話す力」の支えとなっているのは、日々設けているアウトプットの機会と、教科書本文の大量のインプットだと感じています。ラウンドシステムでは教科書を5回繰り返して使用するのですが、本校が使用している『Here We Go!』は物語が親しみやすく、生徒は登場人物の性格やセリフを楽しんでいるため、機械的ではなく、内容を考えながら繰り返すことができます。

3年Unit 6の合唱コンクールの場面では、登場人物の一人、絵里が手首をひねってしまい、誰が一緒にピアノを演奏するか相談しているところにハジンが自ら手を挙げます。ここで「一年前はどうだったかな？」と問うと、生徒たちからは「2年Unit 8で演劇部の助っ人に誘われたときは、“I'm an athlete.”と一度は断っていた」と返ってきます。そこですかさず“He's changed lately. What happened to him?”と教科書本文の表現を使って投げかけ、クラス全体で登場人物の変化を考えます。こんなふうに、いつの間にか、教科書に出てきた表現に触れることができているのです。そして、何度も触れたその表現を取り入れながら、生徒たちは少しずつ話す力を身につけていると感じています。

ラウンドシステムというと、話す力が注目されますが、本校では実用英語検定の合格率も上がってきています。繰り返しているからこそ、何度も表現に触れることができるので、文法についても、生徒の気づきを大切にしながら確認する機会に自然と恵まれていることが一つの要因だと考えています。



アウトプットには、大量のインプットが必要

本校に赴任してから1年がたったときに、小学校6年生の授業を担当するという話をいただきました。そのときに思い出したのは、「小学校の英語の授業では、言葉を呪文のように覚えてスピーチしたことがあった」という生徒の話です。話すことが児童の達成感につながりますが、それはまた無理なアウトプットにもなりうる危険性があることを感じました。小学生にこそ大量のインプットが必要ではないか――そんな思いから、小学校でラウンドシステムのカリキュラムを取り入れる試みが始まりました。

ラウンドシステム in 小学校

小学校では、次のように、4ラウンドの授業展開としました。各ユニットは基本的に2時間ずつで進めました。

ラウンド 1	リスニングによる内容理解
ラウンド 2	リスニング 物語に関する絵カードを選ぶ
ラウンド 3	シャドーイング
ラウンド 4	音と文字の一致とライティング

ラウンド1では、クラス全体で物語を聞いて概要を理解し、ラウンド2で、絵カードを使って（ICTを活用し、各自で活動）、物語の具体的な内容をつかみます。物語が大体わかってきたラウンド3では、登場人物になりきり、シャドーイングを行いました。ここまでのインプットが功を奏したのか、ほとんどの児童がタイミングよく発音することができます。クラスによっては、うまくできなかった部分があると「もう1回やりたい！」と児童が言ってくるほど、熱心に取り組んでいました。最後のラウンド4では、ここまでに慣れ親しんできた表現の文章を読んだり書いたりする、発展的な活動に挑戦しました。登場人物のセリフをランダムに黒板に提示しましたが、私とALTが文章を黒板に貼っている最中から読み始める児童が増えていったように感じます。



このように教科書を繰り返し扱っていく中で、教員と児童間や児童どうしの会話の機会も必ず設けました。ラウンド3、4あたりから児童が話す内容が単語レベルから文章へと少しずつ変化していき、ラウンドシステムの効果を感じています。

小・中のつながり（学びのつながり）

小学校の先生方と話していると、児童の「伝えたい思い」を軸に、授業を構成されている方が多いように感じます。そのような授業で英語に触れる際は、必ず目的・場面・状況が設定されています。だからこそ、わからないところがあっても、児童には聞こうとする姿勢が少しずつ育っていきます。楽しみながら、無意識のうちにたくさんの英語に触れて育ってきた児童だからこそ、中学校でも英語を使いながら、身につけていくことができると考えています。小学校英語が大きな改革を迎えた今、受け入れる中学校が、いかに小学校での学びをつなげていくかが、とても大切だと思います。ラウンドシステムはその小・中のつながりも意識されたカリキュラムであると感じています。

Let's enjoy!

Small Talk Lesson 5

［本日のトピック：自己紹介］

株式会社イーオン **窪田 遼**

はじめに

Hi, everyone! 新年度が始まりましたね。このコーナーでは、小学校外国語で扱われるSmall Talkに関するTipsをご紹介しています。今回はSmall Talkの目的や活動の流れなど、基本について再確認したいと思います。

Small Talkとは

改めて、Small Talk とは、どのような活動であるかを振り返ってみましょう。

Small Talkとは、先生や児童が、あるテーマのもと、自分の考えや気持ちを伝え合う活動のことです。5年生では先生の話を聞くことを中心に、6年生では児童どうしのやり取りを中心に活動を行います。活動には二つの目的があります。一つは、既習表現に繰り返し出会わせ、定着させること。もう一つは、対話を続けるための基本的な表現を定着させることです。

Small Talkの流れ（5年生）

5年生のスタイル、「先生の話を聞くこと」を中心にしたSmall Talkの流れは以下のように進めるとよいでしょう。

❶トピックを提示する

ターゲットにした既習表現を使えるトピックを設定し、“Today, I will talk about ....”などと始めるとよいでしょう。

❷教師の話を聞かせる

設定したトピックに沿った、先生の話を聞かせます。児童がまだ知らない、先生方自身についての話は、児童の興味を引きます。

基本的には既習の表現を使って話を進めますが、新しい言葉やまだ定着していない言葉が登場するときは、写真・絵・実物を見せるなど、児童が話についてこられるような工夫をしましょう。また、Small Talkを即興で行うのはハードルが高いので、それらの表現は事前に書き出しておくとよいでしょう。

❸ALTや児童へ質問を投げかける

その日のSmall Talkに関連した簡単な質問をALTや児童に投げかけます。このとき、Yes／Noや単語だけで答えられる質問を選ぶと、まだ英語の学習経験が浅い児童でも戸惑うことなく答えられるはずです。また、ALTなどの補助教員がいる場合、その人に先に質問に答えてもらうことで、質問への答え方を児童に示すことができます。“How about you?”や“How about ...?”などの表現が便利に使えます。

❹リアクションをする

ALTや児童に質問をしたら、その受け答えにたっぷりとリアクションをしましょう。おうむ返しや“Really?”“Me, too!”など、対話を続けるための表現を、自然と定着させる絶好の機会になります。もちろん、先生の話を聞かせながら、途中で質問を投げかけるのも有効です。

Small Talkの流れ（6年生）

6年生のスタイル、「児童どうしのやり取り」を中心にしたSmall Talkの流れについても簡単にまとめておきましょう。

❶トピックを提示する

5年生同様、まずはトピックを提示します。

❷やり取りの例を見せる

ALTなどと一緒にその日のやり取りの例を見せましょう。自然なやり取りでありながら、うまく既習表現を使った例について、事前にALTと打ち合わせておけると理想的です。

ご自身の英語をお手本とすることに、抵抗感のある先生もいらっしゃるかもしれませんが、苦労をしながらも積極的に外国語でコミュニケーションを取ろうとする、ロールモデルになってあげてください。

❸活動を行う

❷で見せた例に沿った活動に、実際に取り組ませましょう。“Make pairs.”“Switch the roles.”“Great job!”など、活動を進めたり、褒めたりするクラスルーム・イングリッシュを知っておくと便利です。

今回のSmall Talk例

今回は、5年生を想定したSmall Talkを取り上げることにします。『Here We Go!』5のUnit 1 Hello, everyone.では、名前を言ったり、自己紹介をしたりすることが目標になっています。ここで学んだ表現を中心にしたSmall Talk例をご紹介します。

Small Talk 例

T: Hello, everyone! How are you? Let's begin the class. First, I want to talk about my name. What is my name?
Ss: Takada sensei.
T: Right. My family name is Takada. What is my first name?
Ss: Yuto.
T: Wow! Did you know it? Great. My first name is Yuto. How do you spell it? Let's try all together.
Ss: Y-u-t-o.
T: Great job, everyone! Yuto means a nice person. Do you think I am a nice person?
Ss: Yes!
T: Really? Thank you. Kobayashi-san, how about you? What is your first name?
S: Aoi.
T: It spells A-o-i, right?
S: Yes.
T: What does Aoi mean? Is it a color?
S: Yes, blue.
T: Aoi means blue. It's such a beautiful name!

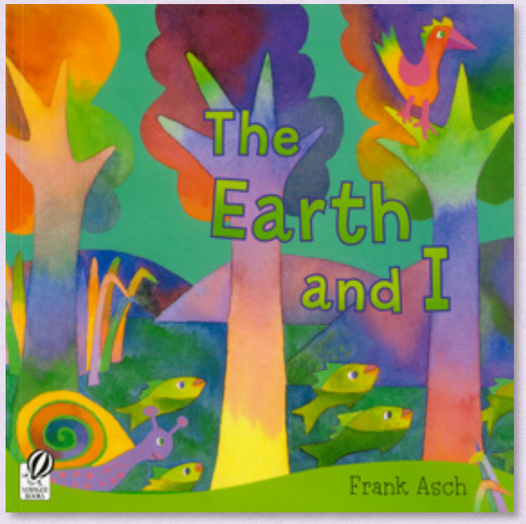
Small Talk例の音声はこちら

窪田 遼 くぼた・りょう
株式会社イーオン 法人事業本部
学校教育課 専任講師
留学経験なしでイーオンに入社し、イーオンスクールでの教務主任を経て、2016年6月より現職。
全国の自治体での教員研修を担当。特に、小学校教員への指導には定評がある。
J-SHINE 小学校英語指導者資格保有。



子どものための BOOK GUIDE

—12—



The Earth and I

著者：Frank Asch
出版社：Voyager Books

カラフルな絵とシンプルな文でできた絵本です。長い文でもせいぜい8words。英語を習い始めの子どもにぴったりです。最初のページは男の子（もしかしたら女の子？）が家の窓から、実をつけたリンゴかナシの木を眺めている絵があって、その下にThe Earth and I are friends.

この後、男の子がthe Earthと話をしたり、遊んだり、踊ったりして、いっしょに悲しんで、最後は、When she's happy, I'm happy.となって、再びThe Earth and I are friends.で結ばれます。文章に関していえば、単語的にも文法的にも（what's on my mindとかの例外はあるものの）、ほぼ初心者向けなので、子どもといっしょに読むには最適です。

ところが、なかなか手ごわい問題が潜んでいます。それは日本語と英語の違いです。例えば、最初の一文。The Earth and I are friends. 日本語だと、「僕と純ちゃんは友達なんだ」というふうに、「僕」が先にきますが、英語では相手が先にきます。

それから、もう一つ、最後のWhen she's happy, I'm happy.という文のsheはthe Earthなのです。この発想は日本人にはありません。しかし「母なる大地」という言葉でもわかるように、欧米でthe earthは女性なのです。そもそもギリシア神話でも、ガイア（大地）が女で、ウラヌス（天）が男。英語では、その他、国、都市、船などもsheで受けます。

そして何より、the Earthの意味の広さ。男の子が庭を耕している絵の下には、I help her to grow.とあって、男の子が野菜を食べている絵の下には、She helps me to grow.また、Sometimes we go for long walks together.という文の上には、男の子が歩いている絵があって、空には太陽が、遠くには山が、近くには川があって、川では魚が泳いでいて、まわりには草が生え、花が咲いています。

このthe Earth、どう訳しますか。大地、自然……もしかしたら地球？　そう、これはthe Earthという意味の広さと大きさを教えてくれる絵本でもあるのです。

金原瑞人
かねはら・みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。
訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど600点以上。日本にヤングアダルト（YA）というジャンルを紹介。
中学校英語教科書『Here We Go!』（光村図書）の編集委員を務める。

光村図書
YouTube公式チャンネル

Here We Come!

英語授業づくりお悩み相談室

英語に関わるすべての先生方に向けた動画が、YouTubeで好評連載中！
講師に教科書編集委員の太田 洋（おおた ひろし）先生（東京家政大学教授）をお迎えし、
日々の授業づくりにまつわるお悩みに一問一答形式でお答えいただきます。
光村図書が開催したオンラインセミナーで実際にいただいたご質問など、
学校の現場から届く声をもとに、
明日の授業づくりのヒントになる情報を動画でお届けします。

リーディング教材、新出語句が多いのが悩みどころです。どのように工夫したらいいでしょうか？

スピーキングやライティングなどのアウトプットの力を骨太に育てていくために大切なことは何ですか？

5ラウンドとはいかなくても、ストーリーを最大限に生かす指導法はありますか？



1分程度の気軽な動画です。すき間の時間にぜひご覧ください。

お悩み大募集！

本コーナーでは、先生方からのお悩みを大募集しています。
英語の授業づくりにまつわる内容でしたら、どんなご質問でもかまいません。
以下の件名・本文をご記入のうえ、メールにてご連絡ください。

- 件名：「Here We Come! お悩み」
- 本文：①お名前、②校種、③担当学年、④太田洋先生へのご質問
- メールアドレス：eigyosuishin@mitsumura-tosho.co.jp